

6 デートDVの実態

(1) 加害・被害の経験

設問9：あなたの恋人などの交際相手との関わりの中で、次の1～11のような行動をしたり、されたりしたことがありますか。

加害経験ありと1つでも回答した人の内、上位3項目は「⑧殴るふりをしたり、軽く叩いたりけったりする」(36.3%)、「①相手を傷付ける呼び方をする」(35.3%)、「②自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」(34.7%)となっている。

男女別にみると、女性の加害経験が最も高い項目は、「⑧殴るふりをしたり、軽く叩いたりけったりする」(39.8%)である。また、男女差が最も大きい項目は、「③相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」で男性より女性の割合が約19ポイント高い結果となった。男性の加害経験が最も高い項目は、「①相手を傷付ける呼び方をする」(43.3%)である。

また、女性より男性の割合が高い項目は、「①相手を傷付ける呼び方をする」、「⑩不愉快な性的言動をする」であり、約10ポイントの差がある。

被害経験ありと1つでも回答した人の内、上位3項目を見てみると、「②自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」(52.9%)、「③相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」(45.1%)、「⑧殴るふりをしたり、軽く叩いたりけったりする」(34.3%)となっている。

この背景に、親密な関係になると、「つきあっている相手は自分に合わせるもの」という意識が強まり、自己中心的な考えや独占欲から、相手を尊重しない人間関係が考えられる。

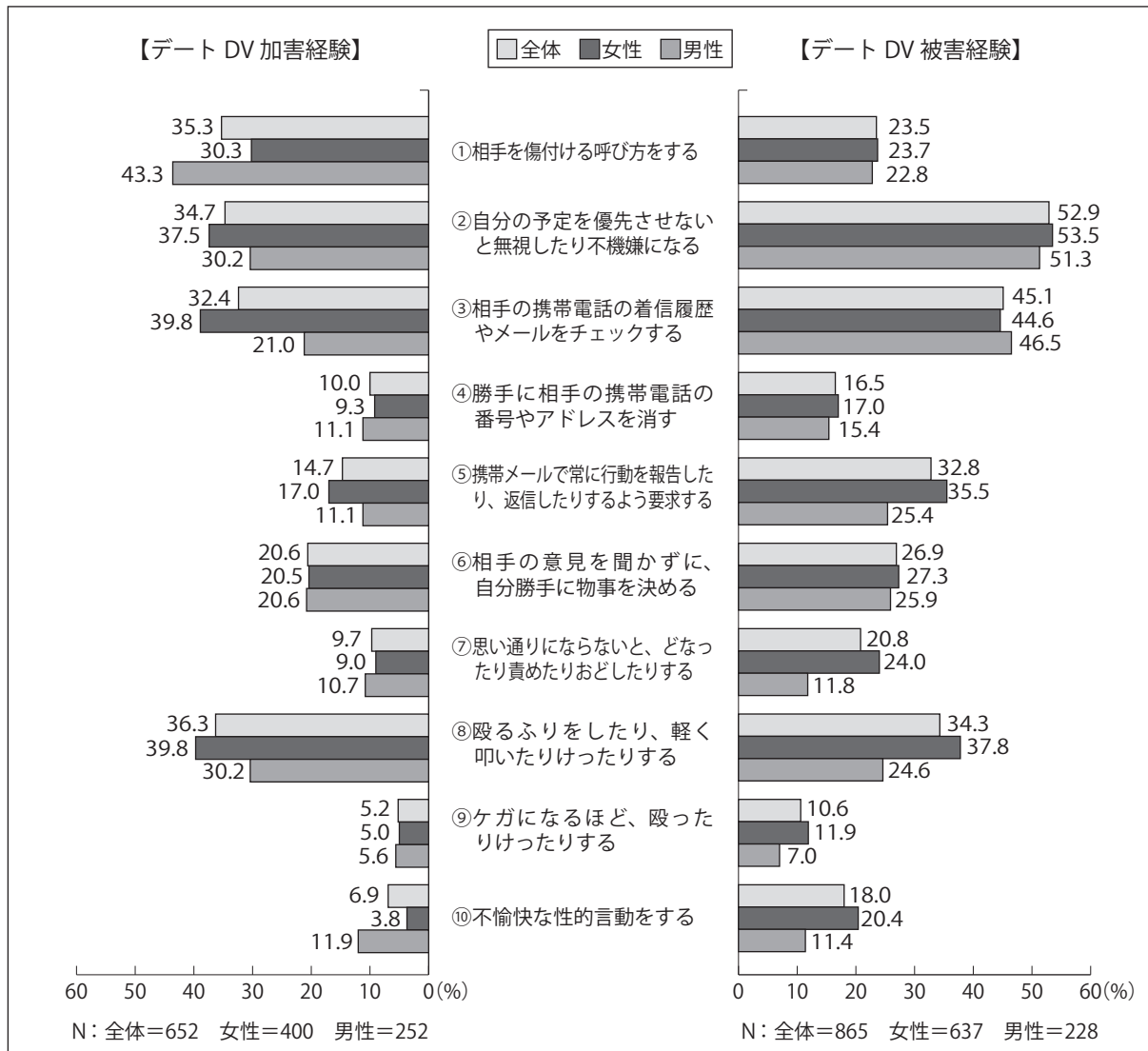
男女別でみると、女性の被害経験の上位3項目は、「②自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」(53.5%)、「③相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」(44.6%)、「⑧殴るふりをしたり、軽く叩いたりけったりする」(37.8%)となっている。

男性の被害経験の上位3項目は、「②自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」(51.3%)、「③相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」(46.5%)、「⑥相手の意見を聞かずに、自分勝手に物事を決める」(25.9%)となっている。

全体的に被害経験は女性の方が割合が高く、特に男女で差が大きく出ている項目は、「⑧殴るふりをしたり、軽く叩いたりけったりする」、「⑦思い通りにならないと、どなったり責めたりおどしたりする」、「⑤携帯メールで常に行動を報告したり、返信したりするように要求する」で約10ポイントの差がある。その次に「⑩不愉快な性的言動をする」(女性20.4%、男性11.4%)の差が大きく、「性」に関して男女間での意識に差が見られることは、設問6「暴力の感度」と同様に見てとれる。これは、女性への性暴力という重大な被害につながる懸念があり、深刻に受け止め、取り組む必要がある。

なお、被害経験の中で女性よりも男性の割合が高い項目は、「③相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」のみとなっている。

【図表18】（設問9）デートDV加害・被害の経験（男女別）



(2) 初めての加害・被害経験時期

設問10(2)：「したことがある」経験の中で、初めてしたのはいつ頃でしたか。

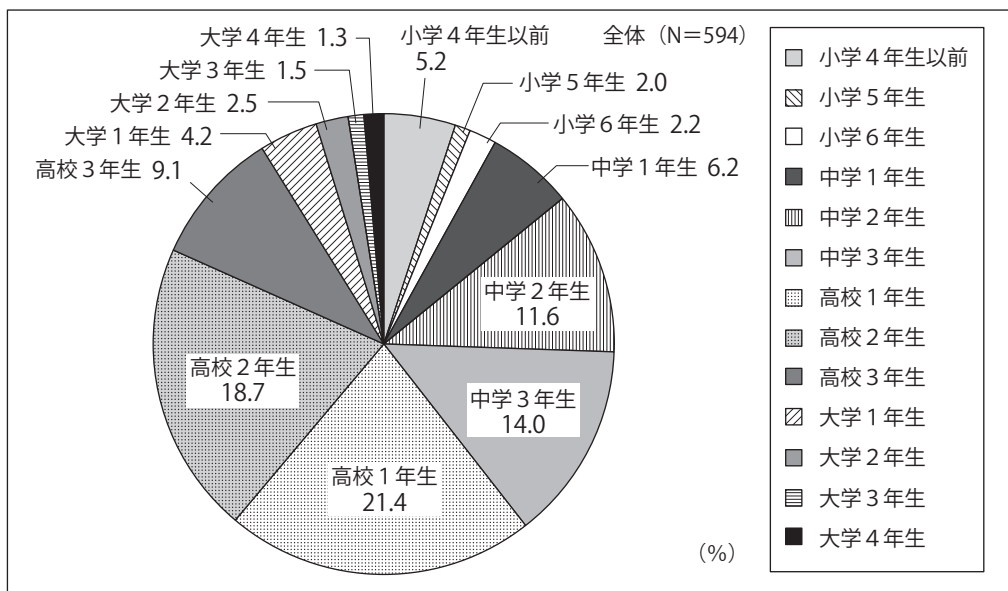
設問11(2)：「されたことがある」経験の中で、初めてされたのはいつ頃でしたか。

初めての加害経験時期については、高校1年生が21.4%と最も高く、続いて高校2年生が18.7%、中学3年生が14.0%、中学2年生が11.6%となっている。

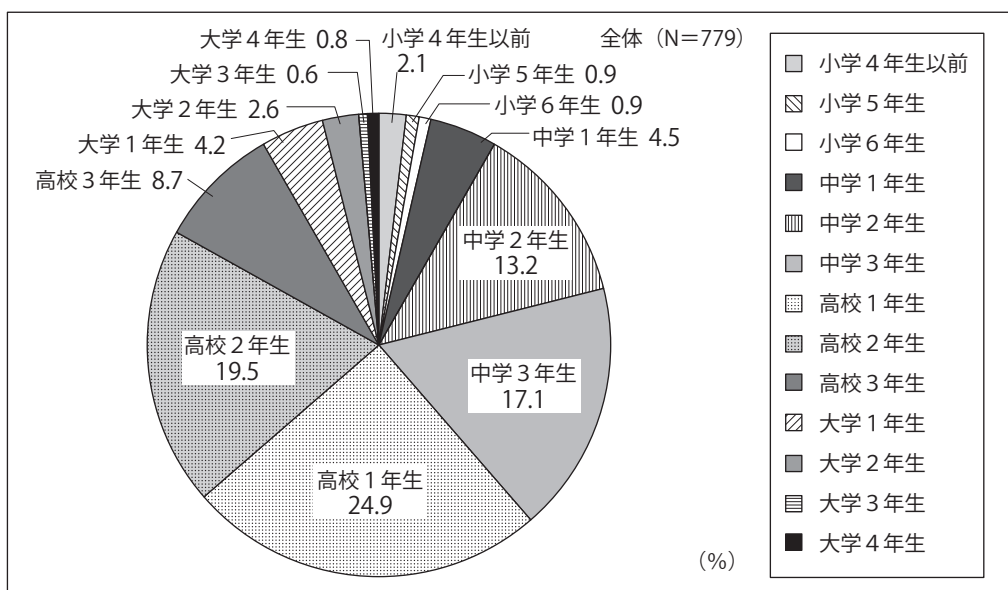
次に、被害経験時期については、高校1年生が24.9%と最も高く、続いて高校2年生の19.5%、中学3年生の17.1%、中学2年生の13.2%となっている。

この結果から、高校生での経験が最も多く、また、加害・被害ともに全体の3割以上が中学生で経験していることがわかる。より早い年齢からデートDVを未然に防ぐための教育が必要である。

【図表19】（設問10(2)）初めて加害を経験した時期



【図表20】（設問11(2)）初めて被害を経験した時期

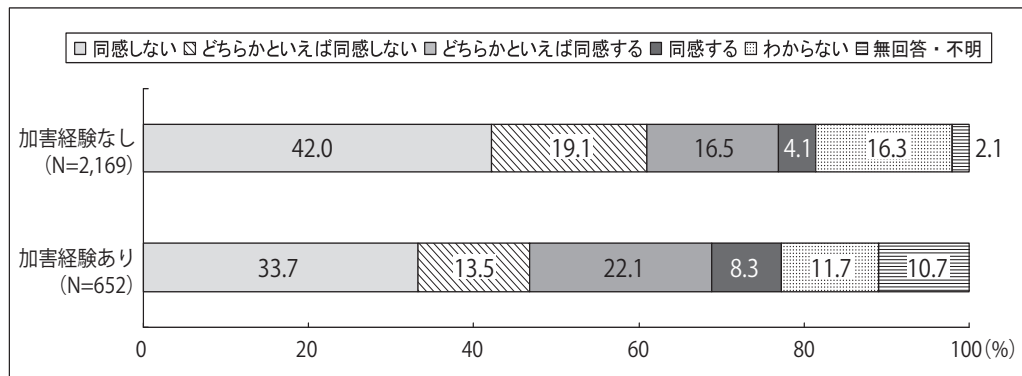


(3) 加害経験と固定的性別役割分担意識

設問9「加害経験の有無」と設問16「固定的性別役割分担意識」をみた。

「加害経験なし」の中では、性別役割分担意識に同感しない人の割合が高く、「加害経験あり」の中では、性別役割分担意識に同感する人の割合が高い。

【図表21】（設問9）加害経験と（設問16）固定的性別役割分担意識

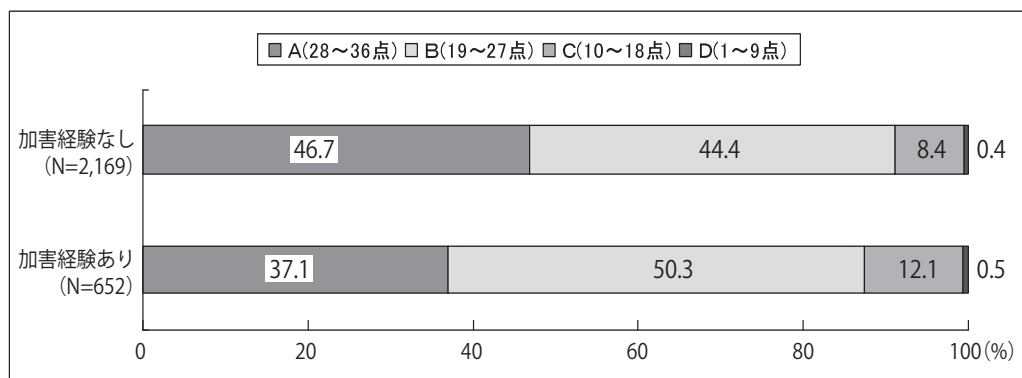


(4) 加害経験と暴力の感度

設問9「加害経験の有無」と設問6「暴力の感度」をみた。

「加害経験なし」の中では暴力の感度が高い人が多く、「加害経験あり」の中では、暴力の感度が低い人が多い。

【図表22】（設問9）加害経験と（設問6）暴力の感度



(注) 上記「加害経験なし」の割合は、設問9において「したりされたりしたことはない」と回答した人の割合である。

<暴力の感度 A・B・C・D>設問6で「暴力とは感じない」を1点、「あまり暴力とは感じない」を2点、「やや暴力と感じる」を3点、「暴力と感じる」を4点とし、各回答者毎に【図表10】の9項目の合計を算出した。最低9点、最高36点であり、点数が高いほど感度が高いことを表す。その感度の高い順にA~Dの4つの集団にわけた。なお、Dには9項目全てに回答しなかった人（1~8点）も含む。

(5) 加害の理由

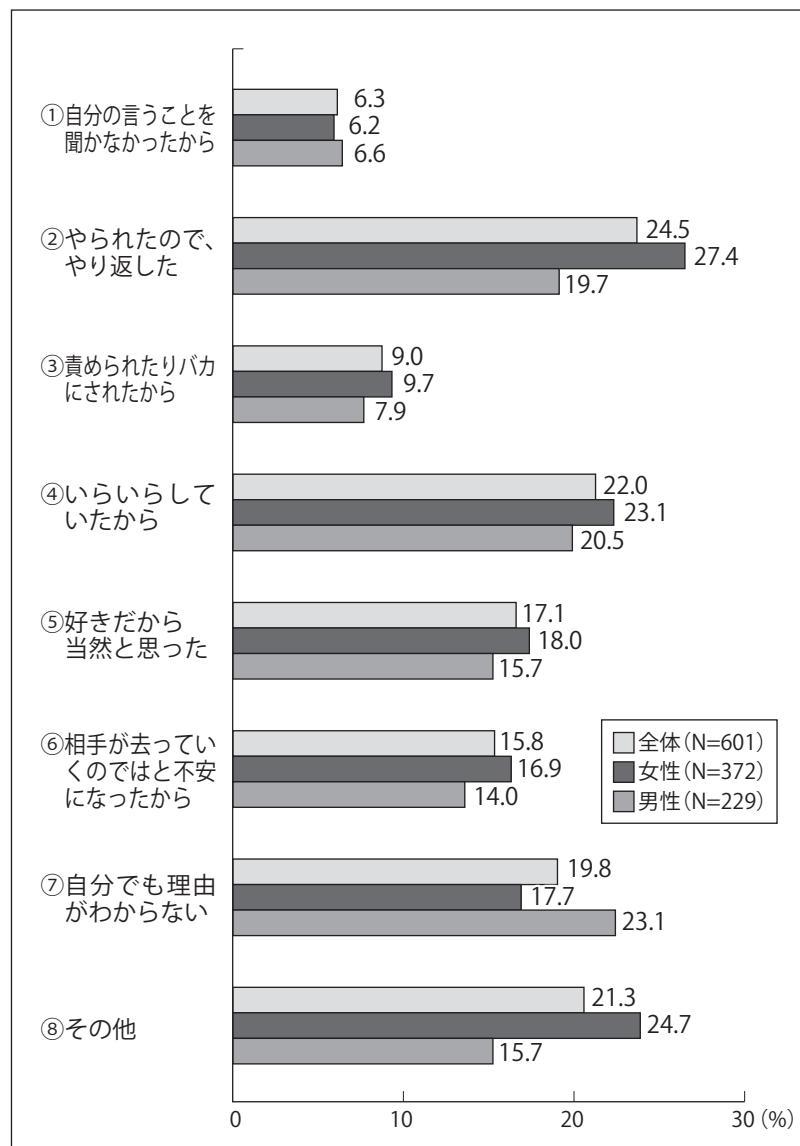
設問10(1)：「したことがある」と答えた人へ、そのようなことをした理由として、あてはまるものにマークしてください。(複数回答可)

全体では、「②やられたので、やり返した」、「④いらいらしていたから」、「⑦自分でも理由がわからない」と回答した人の割合が高くなっている。

男女別でみると、女性は「②やられたので、やり返した」という割合が最も高く、先に何らかの被害を受けたことが考えられる。男性では、「⑦自分でも理由がわからない」という割合が最も高く、男性は女性に比べ自分の気持ちを認識できていない状況がよみとれる。

「⑧その他」には、「ふざけて」「冗談で」「軽いノリで」等のコメントが多い。自分たちの行為が暴力であるという認識が弱いことは危惧すべきである。

【図表23】（設問10(1)）加害の理由（男女別）



(6) 被害時の気持ち

設問11(1)：「されたことがある」と答えた人へ、その時の気持ちについて、あてはまるものにマークしてください。(複数回答可)

被害者（全体）の上位3項目は、「⑥腹が立った」（39.8%）、「③好きだからこそ、されたと感じた」（27.0%）、「①怖かった」（18.8%）となっている。暴力に対して反発する気持ち「⑥腹が立った」に対して、次に回答の多い「③好きだからこそ、されたと感じた」は、暴力を美化し、相手からの愛情として受け入れる姿勢がうかがえる。また、4番目に多い「④自分が悪いから仕方ないと感じた」（17.5%）については、デートDVの責任を加害者ではなく自分に非があるとする姿勢がみられ、暴力によって自尊感情が奪われていく様子が考えられる。

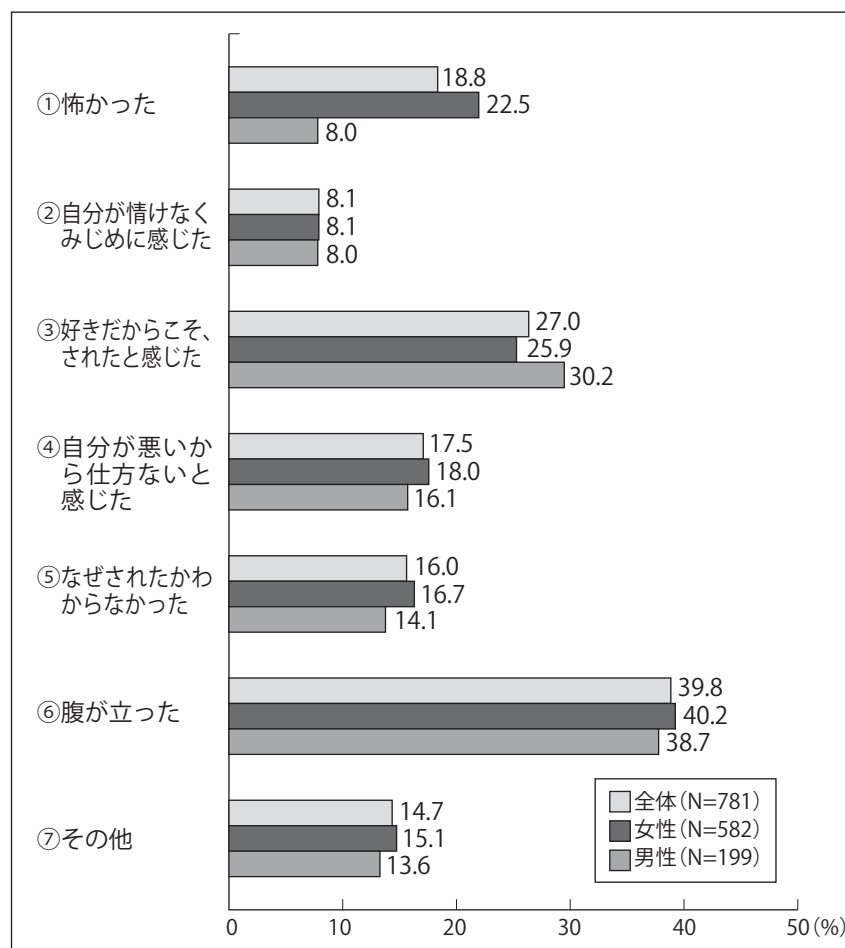
女性被害者の気持ちの上位3項目は、「⑥腹が立った」（40.2%）、「③好きだからこそ、されたと感じた」（25.9%）、「①怖かった」（22.5%）となっている。

男性被害者の気持ちの上位3項目は、「⑥腹が立った」（38.7%）、「③好きだからこそ、されたと感じた」（30.2%）、「④自分が悪いから仕方ないと感じた」（16.1%）となっている。

ここで注目すべきは、「①怖かった」（女性22.5%、男性8.0%）と回答した割合は、男女の差が最も大きく、女性は男性に比べ約3倍もの人が恐怖を感じているという結果である。

ここから、恐怖を感じるような暴力によって相手を支配する関係性となり、深刻な被害につながる危険性が懸念される。

【図表24】（設問11(1)）被害時の気持ち（男女別）



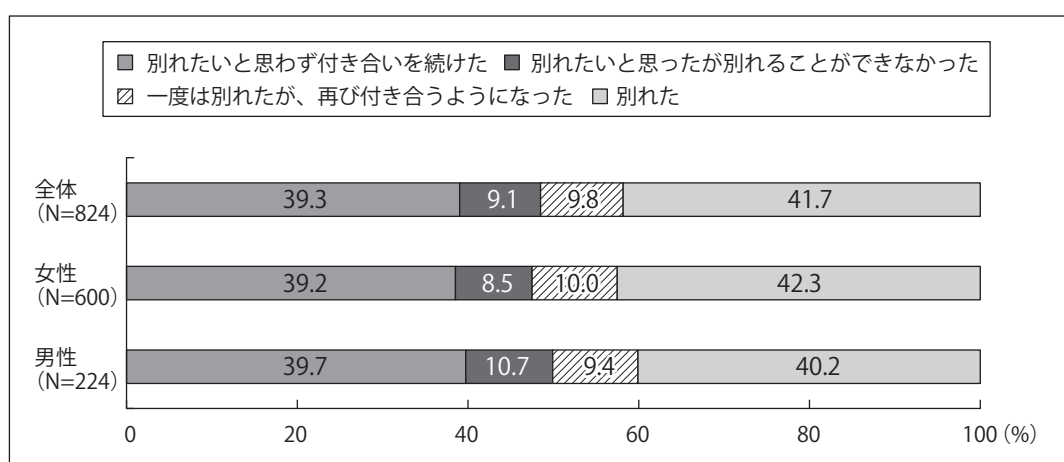
(7) 被害経験後の関係

設問11(3)：「されたことがある」と答えた人へ、その後、相手との関係はどうになりましたか。あてはまるものにマークしてください。

全体では「④別れた」と回答した割合が41.7%で最も高かった。

しかし、被害を受けても別れなかった割合は、「①別れたいと思わず、付き合いを続けた」「②別れたいと思ったが、別れることができなかった」を合わせて48.4%となり、「③一度は別れたが、再び付き合うようになった」も含めると、58.2%の人が関係が続いていることがわかる。

【図表25】（設問11(3)）被害経験後の関係（男女別）



(8) 被害経験後に別れなかった理由

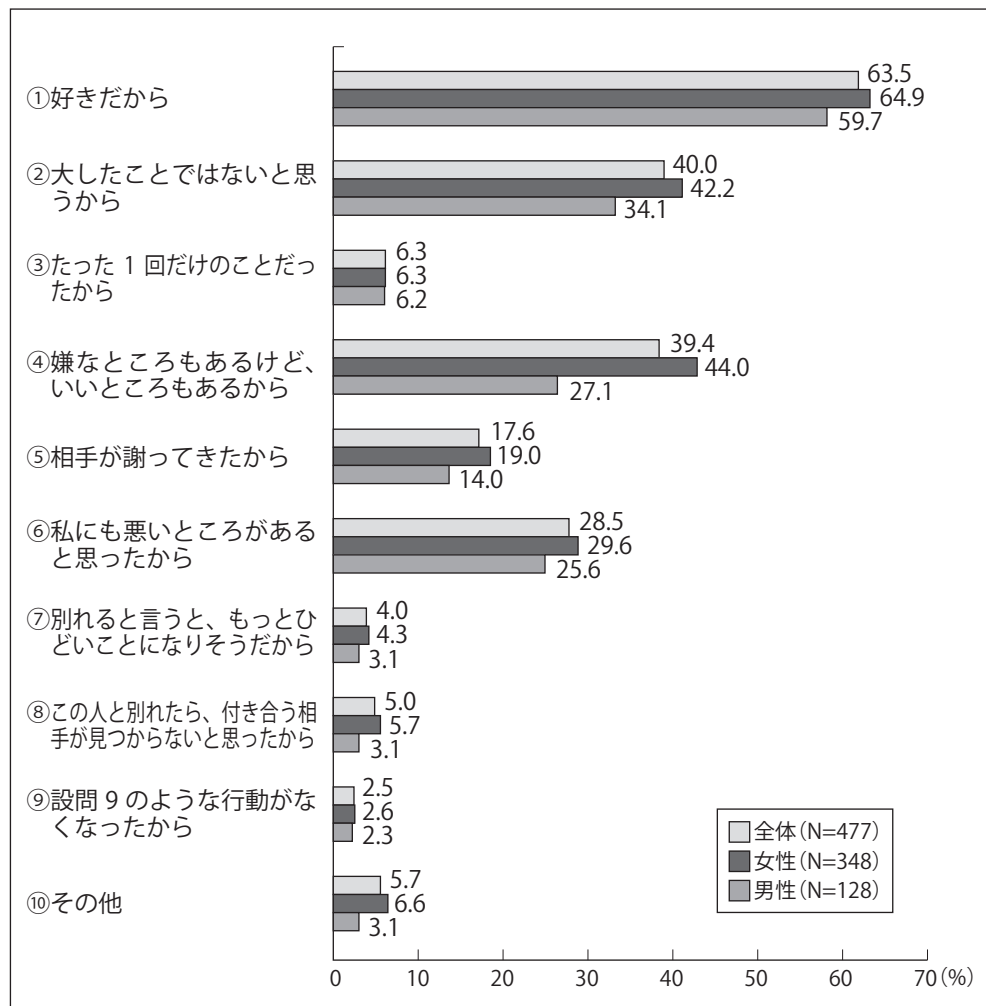
設問11(4)：「付き合いを続けた」「別れることができなかった」「再び付き合うようになった」と回答した方へ、別れなかった理由として、あてはまるものにマークしてください。(複数回答可)

全体的に最も多かったのは「①好きだから」(63.5%)で、6割以上の方が回答している。以下、「②大したことではないと思うから」(40.0%)、「④嫌なところもあるけど、いいところもあるから」(39.4%)、「⑥私にも悪いところがあると思ったから」(28.5%)と続いているが、1位との差は大きい。

男女の差が最も大きくみられたのは「④嫌なところもあるけど、いいところもあるから」(女性44.0%、男性27.1%)で、女性が約17ポイント割合が高い結果となった。

ここから、女性の方が相手を肯定的に受け止めようとする傾向が強いことがうかがえる。

【図表26】(設問11(4)) 被害経験後に別れなかった理由(男女別)



高校・大学別にみると、それぞれ最も多かったのは「①好きだから」(50.7%)である。

また、高校66.8%、大学50.5%と差が最も大きく、高校生の方が暴力への抵抗よりも「好きだから」という気持ちを優先する傾向がみられる。

【図表27】(設問11(4)) 被害経験後に別れなかった理由(高校・大学別)

